

企業フォーカス

極東開発工業

生産性・企業価値 向上に挑む



極東開発のコンクリートポンプ車。中規模建築物の工事などで需要が底堅い

注 目

特装車の名門、極東開発工業が企業価値向上に挑む。過去最高の成長投資を実施するほか、株主還元や借入金活用など資本効率向上策を相次ぎ打ち出す。社会インフラ整備に不可欠な特装車の内需が回復し、2023年度上期（4～9月）は上期として売上高が過去最高に達した。海外でも収益性の高いインドに工場を新設する。コロナ禍などの危機を乗り越え、日本企業の課題として浮上する生産性と企業価値の向上という難関に立ち向かう。（大阪・田井茂）

極東開発はコロナ禍の118億円を実施。や半導体不足、さらに主力車のトレーラー工日野自動車エンジン場や研究開発拠点、イ認証不正で特装車の車種工場の新設計画も台となるトラック不足表明した。23年3月期は売上高と営業利益が画は設備投資300億円、ゴミ収集など社会前期比で減少した。し円、M&A（合併・買収）100億円と、重要な供給責任を担投資で前期比2・3倍計で過去最高の資金をう。

布原達也社長は果敢な投資の狙いを「これまで納期に十分配慮されていなかった。設備の大幅な自動化投資で生産を抜本的に変える」と意欲を示す。特装車は特注品が多いため生産自動化が難しく、そのうえ納期は年度後半に集中する。こうした事情から効率を上げにくい。比較的標準的な中型リヤダンプロットなどの導入を推し進め、自動化と迅速化を試みる。トラックメーカーとは生産情

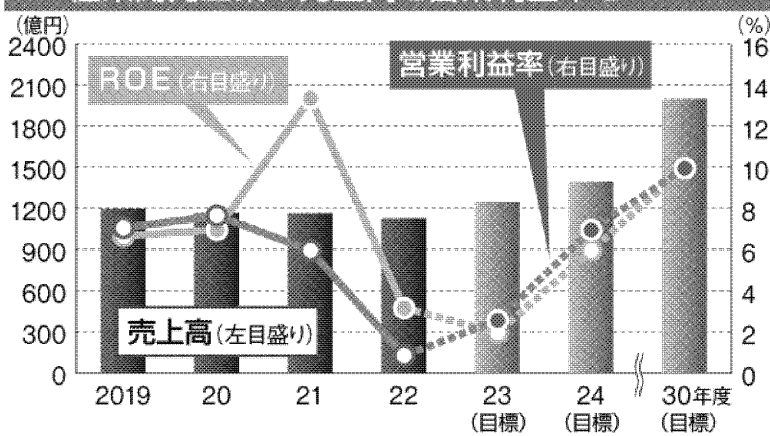
投じる。

トラック不足が改善した結果、受注残は過去最高の814億円に積み上がっている。23年4～9月期は売上高が過去最高で営業利益も前年同期比3・4倍増。極東開発の特装車は建設や物流、災害復旧、ゴミ収集など社会インフラに欠かせず、

自動化・迅速化で大幅設備投資

報を共有しタイムリーに出荷し、仕掛かりや在庫を減らす考えた。コーポレートガバナンス・コード（企業統治指針）強化の流れを受け、株主還元や資本効率にも正面から向き合う。24年3月期は年間配当を4円増配の58円、中計期間に自社株買いも含む総還元性向100%を予定。自社株買いでは22年6月、自己株式を除く発行済み株式総数比率5・0%を上限とする取得計画を決めた。自己資本と両立可能な財務戦略利益率（ROE）の目に転じる。

極東開発工業の売上高と営業利益率とROE



海外売上高比率倍増 20%に

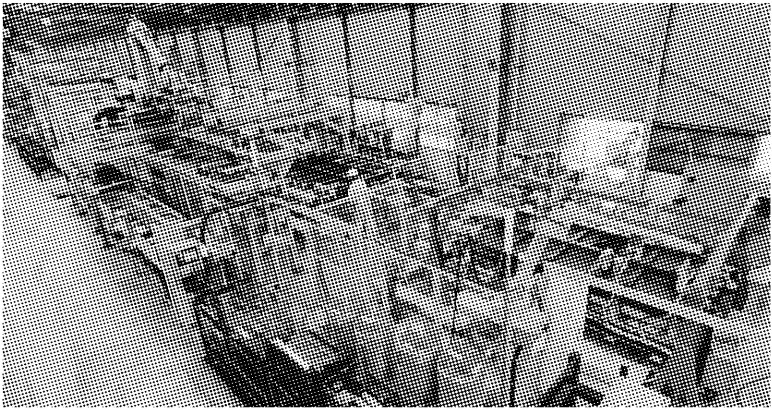
展開

極東開発の歴史は日 課題となる。かつてな 本海軍の傑作機「紫電 改」を生んだ川西航空 踏み切り生産効率化と 機にさかのぼる。川西 生産性向上を目指す。 航空機は現在の新明和 ただ国内市場は成熟 し、規模拡大も容易で ない。そこに注力する のが、インドをはじめ 成長著しい新興国市 場。インドネシア事業 明和も独自に特装車製 はインド事業よりも利 益率が高い。両国には すでに現地企業のM& Aなどで進出し、大型 タンクローリー、

新明和は航空機関連 タンクローリーの販売 や航空旅客搭乗橋、産 業機械など幅広く手が ける。極東開発と新明 和は特装車、ゴミ処理 の環境施設、駐車場施 設で競合する。ダンプ

トラックとゴミ収集車 (布原社長)。インド は新明和がトップで、 極東開発が2位。一方 で極東開発は高シェア のコンクリートポンプ 車やトレーラーなどで 首位。同じ特装車でも 得意な車種が異なる。 極東開発は環境施設関 連事業も強み。設備だ けでなく収益性の高い 運営まで手がけるた め、営業利益率が15% を超える受注もある。 極東開発の価値向上 は22年と23年の株主総 会、売上高の約85% を占める特装車事業の 利益率改善が最優先の 課題となる。かつてな 本海軍の傑作機「紫電 改」を生んだ川西航空 踏み切り生産効率化と 機にさかのぼる。川西 生産性向上を目指す。 航空機は現在の新明和 ただ国内市場は成熟 し、規模拡大も容易で ない。そこに注力する のが、インドをはじめ 成長著しい新興国市 場。インドネシア事業 明和も独自に特装車製 はインド事業よりも利 益率が高い。両国には すでに現地企業のM& Aなどで進出し、大型 タンクローリー、

極東開発は投資会社 のストラテジックキャピタル(SC)とその 運用ファンドが、21年 から主要株主となった ことが判明した。SC 開示、配当性向100 %、不動産や政策保有 株式などの売却、自己 株式消却、取締役と従業員への株価条件型報酬・賞与などが、い ずれも否決された。 一方で極東開発は独 自に配当性向拡大や自 社株買いと消却、政策 保有株式の縮減を実施 し、資金調達に伴う資 本コストも推定で初め て開示した。株式市場 との対話を企業価値や 透明性の向上に反映さ せる考えだ。SCはほ かにも多くの企業に対 し株主提案権を行使し



自動溶接ロボットの増設をはじめ効率化を推進する極東開発の横浜工場 (神奈川県大和市)

競合他社と比べると…

特装車3社の主なシェア首位の製品と連結売上高・営業利益 (23年3月期、億円)

	シェア首位の製品	売上高	営業利益
新明和工業	ダンプトラック ゴミ収集車	2251	92
極東開発工業	コンクリートポンプ車 トレーラー 1台積車両運搬車 タンクローリー・散水車 粉粒体運搬車	1169	69
モリタホールディングス	消防車	813	50

論 点

業績が急回復しています。

「復調しているものの利益はまだまだ付いてきていない。原材料高騰を受け値上げしたが、値上げ分を計上するまでに時間がかかる。受注残はこの半年でさらに積み上がった。自動化やトラックメーカーとの密な情報共有で生産台数を増やし、顧客へ適時に供給したい」

「受注が増えるのはなぜですか。」

「国内の普通トラック市場は14年度から年間5万―9万台で推移し、そのうち特装車は約20%。当社の特装車は減らない。老朽イン

フラの建て替えや人手不足で建設工事がなくならず、特装車の更新需要が続くからではないか」

「株主還元や資本効率を求める要請が市場から強まっています。己株式取得・消却や政「利益を稼ぎ企業価値を上げ、それを再び投資に充て10―20年先をみて成長したい。たがら資本政策などに株価が低かったの反映してきた」

「(PBR)やROEの高めようというところで現状認識は。」「PBRは(12月7日時点)で0.63。1年前まで0.5程度だった。誰のもののか」という問いに突き当たると思い、どう認識していたので改善してきた。資本コストも下がり始め、期待されている。社会に貢献して感じる。ROEも10%利益を配分するべきで、一丸で努力したい」

「SCとの対話で相違点はあります。」「一丸で努力したい」

「しっかりとコミュニケーションを取っておけるように努める。株主に還元して成長見上げるかを除く投資するの、これら、互いに企業価値を高める課題になる」

社 長 布 原 達 也 氏



ROE 10% へ 全社一丸